

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 30 日現在

機関番号：32632

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24520922

研究課題名(和文) 災害後の人々の移動とアソシエーションの人類学・社会学的研究

研究課題名(英文) Anthropological and Sociological Studies on displaced persons and their association after the Fukushima Daiichi Nuclear Power Station Accident

研究代表者

辰巳 頼子 (Tatsumi, Yoriko)

清泉女子大学・文学部・准教授

研究者番号：20407381

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,100,000円

研究成果の概要(和文)：福島第一原発事故以降、福島県から首都圏、茨城県等に避難した人々(いわゆる「自主避難者」を中心に)について調査を行い、避難経路や避難先の人々とのつながりを調査するとともに、先行事例との比較検討も行った。避難者がどのように元の場所、あるいは新しい場所とのつながりを回復するか、をプロジェクトを通じてのテーマとした。重要なことは、放射線をめぐるリスクを巡って人々が分断される中、どのように「生きる条件」を共有できるのかという問いで、それは、二重の住民登録といった具体的な課題と、自治、市民社会によるリスクの共有といった問題群を含む。報告書をもとに、今後もこの課題にそれぞれの分野で取り組んでいく。

研究成果の概要(英文)：This project focuses on internal displaced persons(IDPs) from Fukushima Daiichi Nuclear Power Station Accident. This project tries to find out how they evacuated from Fukushima, and how they have come to associate with the people at the resident areas.

This research finding is that the differences in radiation risk consciousness divides IDPs from the people who remained in Fukushima, from some of the current neighbors, and the IDPs themselves. Thus, what is important is, how IDPs negotiate the conditions of safe and peaceful living with the people around IDPs.

The members of the research project will work on further studies including such issues as double residence registration, communities without localities, issues of autonomy and risk communication.

研究分野：地域研究 文化人類学

キーワード：避難 移動 文化人類学 社会学 災害 東日本大震災

1. 研究開始当初の背景

本研究は、東日本大震災を受けて東京で開設された避難所での調査をきっかけに、その調査に参加したメンバーを中心に発足した。東日本大震災後、福島第一原発事故に伴う危険を自身で判断して避難してきた人々(当時は「自主避難者」と呼ばれていた)が多くいるが、メンバーが当初調査の対象にしたのもそのようないわゆる自主避難者と呼ばれる人々である。

2. 研究の目的

ある個人が避難という決断をし、その行為を続けるということ、さまざまな角度から研究することを構想した。具体的な目的としては、第一に、避難者の避難経路や親族との連携や行政サポート、避難生活の実態、帰還先との関係などを調査すること、第二に、避難者同士、故郷の親族友人、避難先の支援者、一般住民などとともに、避難者がどのようなつながりを作るのか。またそのようなつながりがどのように、住民あるいは市民としての「権利」をもちうるのかを明らかにすることである。

3. 研究の方法

文化人類学、社会学専門の研究者に加え、NGO 論、疫学研究者、震災以来放射線量の測定と公表活動に携わってきた研究者にメンバーとして加わってもらったので、研究方法はそれぞれの専門の調査を基礎にした。また、今回の避難の現場ではなく、以前の移動、避難の事象についての調査を事例として、今回の避難の事例との比較を試みた研究もあった。

4. 研究成果

事故後に移動せざるを得なかった人々が、どのように元の場所、あるいは新しい場所とのつながりを回復するか、をプロジェクトを通じてのテーマとした。

成果物として、中間発表的ではあるが、報告書を機関リポジトリに掲載した。執筆者と目次は以下のとおりである。

高木 竜輔「原発事故に伴う長期避難と避難者受け入れをめぐる課題」

原口 弥生「広域避難の現状と長期的な支援体制の模索」

辰巳 頼子「ひきつづく課題、「支援」の困難と可能性-福島第一原発事故から東京への母子避難者の三年間」

鈴木 直喜「東日本大震災の NGO 支援活動選択 地震・津波被災者が原発事故ディアスポラか」

福武 慎太郎「支援の現場を内側から見る-福島第一原子力発電所事故の避難者支援を事例に」

布施 雅彦「いわき市における幼い子供がいる市民の為に放射線測定の取り組み」

豊川 智之「公衆衛生的リスクコミュニケーションアプローチによる移動選択の支援の可能性と限界」

浜本 篤史「非自発的な移動現象としての避難行動 中国北京の SARS 感染拡大時における日本人留学生のケースから」

斉藤 一正「コソボ出身国内避難民問題の恒久的解決と財産権の回復」

今後も、調査は引き続き行っていくのだが、この報告書の出版時点と言えることは、避難が長期化する中、重要なことは、放射線をめぐるリスクを巡って人々が分断される中、どのように「生きる条件」を共有していくことができるかを問うことである、という点に尽きる。それは、二重の住民登録といった具体的な課題から、いかにして信頼を基盤とした社会を作り直すのかという、自治、市民社会によるリスクの共有といったやや広い問題群を含んでいる。震災と原発事故から5年を経て、現在に至るまで、避難の問題は状況を変えながらも引き続いていく。今後は、メンバーがそれぞれこのような問題群について取り組むとともに、大規模広域避難の長期化という、東日本大震災の特徴とそこからのレッスンを生かすために、この報告書を、大学生やボランティアを志すような一般の読者のためのガイドブックとして用いることができるような工夫をしていけるように、今後の展開を模索する。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

雑誌論文](計 16件)

1 辰巳 頼子 2016「ひきつづく課題、「支援」の困難と可能性-福島第一原発事故から東京への母子避難者の三年間」、『災害後の人々の移動とアソシエーションに関する人類学・社会学的研究:文部科学省科学研究費報告書 2012年度~2015年度 基盤研究(c)』、35-58頁。

2 辰巳 頼子 2014「避難がもたらす平和-原発事故からの母子避難者が形成する新たなつながり」小田博志(編)『平和の人類学』法律文化社。

3 高木 竜輔 2016「福島県内の原発避難者に対する社会調査の実践とその課題」、『社会と調査』(16)、38-45頁

4 高木 竜輔 2016「長期避難下における富岡町民の避難生活と将来選択 2014年復興庁富岡町二次データ分析」、『災後の社会学 4』50-62頁

5 高木 竜輔 2016「原発事故に伴う長期避難と避難者受け入れをめぐる課題」、『災害後の

人々の移動とアソシエーションの人類学・社会学的研究』

6 高木竜輔 2015 「原発事故に対する岩城市民の意識構造(1)」『いわき明星大学人文学部研究紀要』(28), 65-79 頁

7 菊池真弓・高木竜輔 「2015 原発事故に対する岩城市民の意識構造(2)」『いわき明星大学人文学部研究紀要』(28), 81-96 頁

8 野沢達也・渡辺弘・早川信夫・高木竜輔 2015 「いわきのローカルメディアはどう東日本大震災を伝えたか」『いわき明星大学人文学部研究紀要』(28)106-118

9 高木竜輔 2015 「避難生活の長期化とコミュニティ形成」『生活協同組合研究』(470)49-52 頁

10 高木竜輔 2015 「福島原発事故直後における避難生活と生活再建」OCU-GSB Working Papers6-22

11 高木竜輔 2014 「福島第一原発事故・原発避難における地域社会学の課題」『地域社会学学会年報』(26), 29-44 頁

12 高木竜輔・石丸純一 2014 「原発事故に伴う楢葉町民の避難生活」『いわき明星大学人文学部研究紀要』(27), 22-39 頁

13 高木竜輔・森丈弓・窪田文子 2014 「高校生のストレス反応に及ぼす原発避難の影響1」『いわき明星大学人文学部研究紀要』(27), 79-88 頁

14 窪田文子・森丈弓・高木竜輔 2014 「高校生のストレス反応に及ぼす原発避難の影響2」『いわき明星大学人文学部研究紀要』(27), 2 89-99 頁

15 原口弥生 2013 「東日本大震災にともなう茨城県への広域避難者アンケート調査結果」『茨城大学地域総合研究所年報』(46)61-80
原口弥生 2012 「災害回復力(レジリエンス)の再検討」『歴史研究』(898)194-202

16 布施雅彦 2015 「いわき市における除染対象外の公園・教育施設の簡易土壌調査」Proceedings of the 16th Workshop on Environmental Radioactivity 16:271-276

〔学会発表〕(計 8 件)

1 高木竜輔 「いわき明星大学震災アーカイブ室の活動と課題」『第5回 被災地図書館との震災資料の収集・公開に係わる情報交換会』2016年1月22日 神戸大学六甲キャンパス

2 辰巳頼子 「放射線被害からの広域避難の調

査研究に向けて」『文化人類学会分科会』2015年5月30日大阪国際センター

3 高木竜輔 「原発避難研究における「研究者」の可能性と困難 調査への関わりを通じて」『第12回 質的心理学会』2015年10月3日、宮城教育大学

4 原口弥生 「市民運動による政治的機会の形成とその課題」『日本平和学会 2014 年度春季研究大会』2014年6月22日神奈川大学

5 Yayoi Haraguchi "Toward the Inclusive Resilience for Both Individuals and Communities", 18 World Congress of Sociology ' (RC39), 2014/7/14. パシフィコ横浜

6 Yayoi Haraguchi "Civil Movements in Low-Recognized Disaster Affected Areas" 18 World Congress of Sociology ' (RC34), 2014/7/14. パシフィコ横浜

7 Yayoi Haraguchi "Networking and Citizen Science in Low-Recognized Disaster Affected Areas : Local Governance of Nuclear Energy," the 5th International Symposium on Environmental Sociology in East Asia, 2015年10月30日東北大学

8 布施雅彦他 "Risk communication for students in the case of Fukushima Nuclear Plant Accident 2011" International Symposium on ICT in Development 2015 2015/11/2, National University of Samoa

〔図書〕(計 5 件)

1 辰巳頼子編 2016 『災害後の人々の移動とアソシエーションに関する人類学・社会学的研究: 文部科学省科学研究費報告書 2012 年度~2015 年度 基盤研究(c)』清泉女子大学リポジトリ

2 高木竜輔 2015 『原発避難者の声を聞く』岩波書店 79(16-79)
高木竜輔 2015 『原発災害はなぜ不均等な復興をもたらすのか』ミネルヴァ書房 271(145-165)

3 高木竜輔 2015 『福島原発事故賠償の研究』日本評論社 328(286-296)
原口弥生 2015 『原発避難白書』人文書院 244 (195 - 200)

〔産業財産権〕
出願状況(計 件)

名称:
発明者:

権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

機関リポジトリに報告書を公開
https://seisen.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=879&item_no=1&page_id=25&block_id=29

6. 研究組織

(1) 研究代表者

辰巳頼子 (TATSUMI, Yoriko)
清泉女子大学文学部・准教授
研究者番号：20407381

(2) 研究分担者

福武慎太郎 (FUKUTAKE, Shintaro)
上智大学総合グローバル学部・教授
研究者番号：80439330

浜本篤史 (HAMAMOTO, Atsushi)
名古屋市立大学人文社会系研究科・准教授
研究者番号：80457928

原口弥生 (HARAGUCHI, Yayoi)
茨城大学人文学部・教授
研究者番号：20375356

高木竜輔 (TAKAKI, Ryusuke)
いわき明星大学人文学部・准教授
研究者番号：30512157

布施雅彦 (FUSE, Masahiko)
福島工業高等専門学校・准教授
研究者番号：80280245

豊川智之 (TOYOKAWA, Satoshi)
東京大学大学院医学系研究科・准教授
研究者番号：40345046

鈴木直喜 (SUZUKI, Naoki)
清泉女子大学文学部・教授
研究者番号：10338577

(3) 連携研究者 ()

研究者番号：